

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	笹月桃子	職名	教授	学位	医学博士 (九州大学)
----	------	----	----	----	-------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児緩和ケア</li> <li>・小児の生命倫理</li> <li>・小児の臨床倫理</li> </ul>	子どもの最善の利益、尊厳、代理意思決定、協働意思決定、きょうだい支援

研究課題
1. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児のいのちに関わる医療の方針決定に際する医療者と家族の協働意思決定はいかにあるべきか 2. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児の代理意思決定とはいかに可能か 3. 自己決定概念が基盤にある現代医療において脆弱な立場に置かれた子どもの最善の利益、尊厳はいかに捉え得るか 3. 重篤な病態や重度障害を抱える子どものきょうだいの心理社会的体験とは何か・支援はいかにあるべきか

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護形態機能学 I</li> <li>・看護形態機能学 II</li> <li>・初年次セミナー I</li> <li>・初年次セミナー II</li> <li>・医療と倫理</li> <li>・疾病学各論 II : 小児科</li> <li>・緩和・終末期看護 : 小児緩和ケア</li> <li>・キリスト教と生命倫理 (助産別科)</li> </ul>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護形態機能学 I・II 】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。後期に実施した解剖実習見学を通じて、いのちへの畏敬の念と医プロフェッショナルとしての覚悟を自身の内に芽生えさせ、自覚できるよう、綿密な事前事後学習の上で実習に臨めるよう支援した。
授業科目名【 疾病学各論 II : 小児科 】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【 医療と倫理 】 一方向性にならないよう、医療をめぐる倫理的な課題について、折々に意見を求めながら講義を進めた。映画を鑑賞し、物語の中からそれまでの講義で学んだ倫理的な課題の抽出を試みさせた。また投票システム等を利用し、思考問題を提示し、課題を自分ごととして考えながら、同時に他者の意見や思索を聞く機会とした。正解を示すのではなく、今後医療者として倫理的課題に対峙した際の思考アプローチを示すよう努めた。
授業科目名【 緩和・終末期看護学 : 小児緩和ケア 】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ①昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。
- ②学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。
- ③「問いたて」を起点とした思考の展開を促し、併せて「文章の構成」を意識できるよう、新規ワークシートを作成した。
- ④担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

初年次セミナーII

- ①初年次セミナーIIでは、初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ②学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ③プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。
- ④発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑤プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【 キリスト教と生命倫理 】（助産別科）

出生前診断や重篤な病態・重度の障害を抱える新生児の治療中止等をめぐる現代の周産期医療現場の課題を共有した。その上で、医療者としてそこで生じる倫理的ジレンマにいかに対峙するか、どのように妊婦・母親・家族と協働するかについて考察する機会とした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医 倫理委員会委員（2020年～）	1994年～ 1998年～
日本小児神経学会	第58-65回日本小児神経学会学術大会実践教育 セミナー企画責任 第59-63回日本小児神経学会学術大会シンポジウム 企画責任	2010年～ 2015年～
日本小児血液・がん学会	教育研修委員会（緩和ケア等事業委員会）委員（2015 年～）	2015～2021年
日本緩和医療学会	日本緩和医療学会緩和ケア研修指導者（2011年～） 将来構想委員会 小児緩和ケアWPG員（2014年～）	2015年～

日本生命倫理学会	第 28 回日本生命倫理学会年次大会プログラム委員 第 30-33 回同大会シンポジウム企画者 新生児・小児部会 幹事	2016 年～ 2021 年～
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士 上級倫理認定士 上級倫理委員会委員	2016 年～ 2021 年～ 2021 年～
日本医学哲学・倫理学会 九州医学哲学・倫理学会 日本重症心身障害学会		

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 緩和ケア 小児神経領域における緩和ケアのいまとこれから	共著	2022.06	難病と在宅ケア 28 巻 3 号	笹月桃子, 吉良龍太郎 P41-44
(学術論文) Critical vitamin deficiencies in autism spectrum disorder: Reversible and irreversible outcomes.	共著	2022.11	Eur J Clin Nutr. 2022 Nov;76(11):1618-1621.	Chong PF, Torio M, Fujii F, Hirata Y, Matsuoka W, Sonoda Y, Ichimiya Y, Yada Y, Kaku N, Ishimura M, <u>Sasazuki M</u> , Koga Y, Sanefuji M, Sakai Y, Ohga S.
(翻訳) なし				
(学会発表) 子どものいのちをめぐる「意思」とは、「決定」とは、「支援」とは何か シンポジウム：終末期を見据えた話し合いを子ども本人とどのように進めるか?  重度の障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験～当事	単    共	2022. 4. 15 ふくしま hybrid 開催  2022. 6. 25 三重	第 125 回 日本小児科学会学術集会   第 69 回日本小児保健協会学術集会	   樋口由貴子, 笹月桃子, 山本佳代子, 文屋典子, 野井未加

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
者の語りの分析から～				
いのちをめぐる「代理意思決定」はいかにあり得るか シンポジウム：言葉で意向を伝えることができない患者の意思決定について考える～小児と高齢者における意思決定の類似点と違い～	単	2022. 7. 1 神戸 hybrid 開催	第 27 回日本緩和医療学会学術集会	
九州大学病院小児緩和ケアチームにおける活動報告 子どもたちが一番良い最期を迎えるための多職種での取り組み（一般口演）	共	2022. 7. 1 神戸 hybrid 開催	第 27 回日本緩和医療学会学術集会	古賀 友紀, 横山 智美, 東 加奈子, 武本 淳吉, 若杉 陽子, 小笠原 貴子, 池田 世里奈, 清水 絵里花, 副嶋 綾子, 野母 ゆかり, 上野 ふじ美, 北村 佳代子, <u>笹月 桃子</u>
大きな言葉の前に立ち止まる シンポジウム：看護師さん、ねえ、見て、聞いて～日々の実践で子どもの権利を守るということ～	単	2022. 7. 9 福岡 hybrid 開催	第 32 回日本小児看護学会学術集会	
新生児のいのちをめぐる「代理意思決定」とは何か 教育講演（特別セッション）	単	2022. 7. 12, 横浜 hybrid 開催	第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会	
子どもを亡くした遺族に関わる医療福祉等関係者のグリーフに関する認識と遺族支援の現状	単	2022. 08 福岡	第 29 回日本家族看護学会学術集会	藤田紋佳, 濱田裕子, <u>笹月桃子</u> , 植木 慎悟
子どもの最善の利益と代理意思決定 特別講演	単	2022. 9. 3, web 開催	第 13 回 九州医学哲学・倫理学会学術大会	
医師はいかに「最後の砦」たり得るか 大会企画シンポジウム：安楽死問題における〈当事者〉とは誰か？	単	2022. 11. 19, 大阪 hybrid 開催	第 34 回日本生命倫理学会年次大会	
「代弁」の困難性の実体を探る ワークショップ：代理	単	2022. 11. 20 大阪 hybrid 開催	第 34 回日本生命倫理学会年次大会	

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
意思決定を再々考する一関係性の内にある弱き存在をいかに支え得るか				
小児医療における倫理的課題と話し合い 子どもの声は届いていますか～子供にとっての「最善の利益」を考えるために～	単	2023. 1. 7 web 開催	日本小児看護学会倫理委員会企画 研修	
子どもの最善の利益をめぐる議論の構造とこれから シンポジウム：小児のEnd of Life Care～子どもの最善の利益とは？～	単	2023. 3. 3 京都	第50回日本集中治療医学会学術集会	
子どもの最善の利益を追究する「話し合い」の課題と可能性 日本小児科学会に求められる倫理とは？～小児医療において今求められる生命倫理・臨床倫理～	単	2023. 3. 4 web 開催	第13回日本小児科学会倫理委員会公開フォーラム	
教育講演：小児医療と臨床倫理	単	2023. 3. 19 東京	第10回日本臨床倫理学会年次大会	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は 学外者	交付決定額 (単位：円)

子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	○笹月、(酒井、板井、加部、櫻井、松岡)	代表 4,030,000
小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	科学研究費補助金・基盤研究(B) 2019-23	(○松岡、奈良間、川合、岡崎)、 <u>笹月</u>	分担 (総15,730,000)
子どもを亡くした家族のビリーブメントプログラム開発	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	(○藤田、濱田)、 <u>笹月</u>	分担 (総3,770,000)
小児からの臓器提供にかかる基盤整備と普及・教育システムの開発に関する研究	厚生労働科学研究費 2021-24	(○荒木、種市、多田羅、他)、 <u>笹月</u>	分担 (総9,685,000)
新生児臨床倫理コンサルテーションシステム構築及び新生児医療の倫理的判断基準の検討	国立成育医療研究開発費：2021-23	(○賀藤、高橋、掛江、加部、横野、武藤、稲森、瀧本)、 <u>笹月</u>	分担 (総1,232,000)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・厚労省委託事業、現在日本緩和医療学会及び日本小児血液がん学会 共催事業、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム：CLIC」	プログラム作成・コアファシリテーター・講師	2010年～現在に至る 年に2～4回定期開催継続中
・新生児生命倫理研究会	世話人	2019年～現在に至る
・九州大学病院小児緩和ケアチーム及び小児倫理コンサルテーション	医師	2015年4月～現在に至る
・福岡市立こども病院	倫理委員会外部委員 非常勤医師	2018年4月～現在に至る
・研究支援（学会雑誌論文査読）		

<p>・九州大学医学部小児科 ・中村学園大学栄養科学部栄養科学科 ・立正大学哲学科</p> <p>・厚労省小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ</p> <p>子どものいのちをめぐる「代理意思決定」について考える 久留米大学病院 2022年度第2回緩和ケアセンター勉強会</p> <p>重篤な疾患を抱える子ども・家族との対話 コールメディカルクリニック福岡 小児緩和ケア研修会</p> <p>いのちをめぐる問い 修猷館高校出前授業</p> <p>小児緩和ケアと意思決定支援 第1回 相談支援研修会 第7回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会</p> <p>子どものいのちをめぐる代理意思決定について考える シンポジウム：自分らしく人生を全うするために～人生の最終段階の医療・介護のあり方を考える～ 日本弁護士連合会</p> <p>意向表出のできない子どもの代理意思決定支援 日本小児血液がん学会・日本緩和医療学会共催 2021年度 小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会</p>	<p>非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師</p> <p>WG員</p> <p>以下、招待講演</p> <p>企画・講師</p>	<p>2017年度～：小児臨床倫理の講義 2019年度～：小児疾病の講義 2022年度：著書（反延命主義の時代）に沿った講義</p> <p>2021. 11. 3</p> <p>2021. 4～</p> <p>2022. 8. 4 web</p> <p>2022. 10. 3 web</p> <p>2022. 11. 3 福岡</p> <p>2023. 1. 6 web 開催</p> <p>2023. 3. 4 web 開催</p> <p>2022. 12. 17, 2023. 3. 19 web 開催</p>
<p>学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）</p>		
<p>倫理審査委員会 委員 2018年～、同委員長 2022年～ 保健福祉学部附属研究所 運営委員 2018年～ 学生総合支援室 室長 2021年～ 看護学科 国試対策強化学習講義</p>		